

# 山 弓 連

平成25年10月 (25年度第5号)

(臨時増刊号)

## 会 員 数 増 加 へ の 願 い

会長 天野 裕

この広報でも紹介されたように、本年度の国民体育大会（東京都小金井市、9月29日～10月2日）では少年女子の皇后杯6位の活躍があり、関東地域弓道選抜選手権大会（甲府市小瀬武道館 10月6日）では山梨県選手団が昨年に引き続き優秀地連賞を獲得するなどの活躍をされました。選手の方々の努力はもとより、多くの弓友達の励ましと支えの賜物と思います。

対外的に活躍されている方々の成果は、山弓連の活動に活を与え、弓友達に元気、勇気、やる気を与えてくれます。しかし一方で選ばれた人たちを競技の請負人とみなして、自らは狭く、生活地域のみでの活動に閉じこめている状況もあるのではないのでしょうか。

### 近年の山弓連会員数の推移

平成21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
415名	410名	411名	391名	375名

数字が示すように山弓連の登録会員数は年々減少しており、その規模は全国的にも下から数えた方が早い位置にあります。

会員数減少の直接のきっかけは平成20年の国体関東ブロック大会を山梨県で開催した時にあります。予定された年の数年前から開催経費の不足に悩んだ結果、現在のような会費体系でその場を乗り切りました。他県に比べても高額な山弓連会費を回避して所属する支部会費のみで弓道を楽しもうと考えるのも無理からぬことかも知れません。しかし少規模地連ゆえの高負担を敬遠して登録会員が減少すれば他の会員への一層の負担増が懸念されます。

会員の増加を期待して、高校3年生・社会人交流大会、国体選手壮行交流射会（高校1・2年生）なども実施して参りましたが、この世代の地連参加には時間がかかり、生活環境次第という面があります。今すぐ期待されるのは既に県内各地域で弓道に親しみ、地域だけで射会を楽しんでいらっしゃる方々の山弓連への回帰が第一です。

自分や同志の活動の場を拡大し、一層充実させるには、より多くの仲間の参加が必須条件であります。スポーツが私たちに与えてくれる力やその価値については説くまでもありません。山弓連への会員登録を回避されている方々へ、是非再考をお願い致しますと同時に、支部長さんはじめ会員同志の方々からの勧誘と督励のご努力を期待致します。

### ・・・・公益財団法人 全日本弓道連盟会費のこと・・・・

会費増の悩ましい状況が更に迫っています。2年前に財団法人から公益財団法人に衣替えした全日本弓道連盟は、その法人会計を維持する為に来年度から全国各地連の会員一人につき1000円の会費徴収を決定しています。審査などの事業収益からは補填できないということで、法人会計の維持にはID番号所有者の会費をもってこれに充てることになっております。上部団体が崩壊すれば私達の弓道もこれまでのような活動を維持することは出来なくなります。我々が地連を維持する他に、全弓連という上部団体の維持をしなければなりません。

これに対して、山弓連執行部としましても今以上の会員減少は是非とも食い止めたいので、現会員へのご負担を最小限に抑えるべく対策を考えております。

一つには、地連が主管する各行事の運営役員に支給している旅費を削減させていただくこと、現行会費の分担割合を見直すこと、経費節減へ一層の工夫を加えること等で1000円の負担増を掛けずに済ますことが出来ないかとも考えているところです。会員諸氏からのご提案を支部長や代議員を通じて執行部へお寄せ頂くことをも期待しております。どうか諸事情ご賢察の上ご協力をお願い致します。

## 国民体育大会東京大会(少年女子)を終えて

報告少年女子監督 中沢友二

昨年行われた岐阜国体で遠的、近的ともに予選通過することができず、選手・スタッフ一同悔し涙を流しました。その際、補欠選手として帯同した2年生の保坂奈津実、中村栞梨に「先輩達の意味を引き継ぎ、来年この舞台に戻ってきて先輩達の無念を晴らそう！」と約束しました。

国体を目指す先輩達に憧れを抱き、自分の弓を向上させていこうとする高い意識を持った選手、内田麻琴(巨摩)、中村栞梨(富士北稜)、保坂奈津実(甲府第一)、補欠選手として2年生の舟久保祐里(吉田)4名で東京国体に挑みました。神奈川県で行われた厳しいブロック大会を突破し、9月の1ヶ月間、平日は学校で、週末は小瀬での練習に力を入れてきました。短い期間でしたが良いコンディション、モチベーションで東京に入ることができていました。特に遠的は矢数をかけてきたこともあり、安定した中、点数を残していました。

競技は近的予選から始まり、1回目10中、2回目10中、24射20中で全体の3位通過。8射8中の中村も見事でしたが、常にチームを引っ張ってきた内田が大舞台でも大前としての役割を果たし、7中と健闘しました。

2日目は遠的の予選・決勝が行われ、1回目は58点、2回目は70点、計128点で全体の1位通過。後で聞いた話ですが、本人達は予選通過は当たり前、決勝トーナメントのことを考えていたそうです。国体独特の緊張感の中でも自分の弓を見失わずに挑むことができた予選でした。

決勝トーナメント1回戦は宮崎県に74-38で勝ち、準決勝では栃木県に58-72で敗れ、3位決定戦(一手)で兵庫県に35-15で勝ち、3位入賞を果たすことができました。遠的では常に安定した中を出してチームを支えた保坂の姿が印象に残ります。3人は以前から対戦したい相手はブロック予選からライバル関係にあった栃木県と口にしていました。実際にその願いが叶い、敗れはしましたが全力を出して戦い、退場後の充実感に満ちた笑顔は高校生らしい清々しさを感じるものでした。

3日目の近的決勝トーナメント1回戦は石川県と対戦し、予選とは一転、初矢から4本連続の失中、相手にペースを握られ、追いつくことができず6-8で敗れました。順位決め競技でも健闘しましたが、最終的に6位入賞で終わりました。結果、遠的、近的の両種目で入賞、女子総合でも第6位に入賞することができましたが、選手、スタッフには喜びというよりも安堵感が強かったように思えます。「先輩達の想い」を背負い、自ら厳しい練習を求め、多くのことを犠牲しながらも約束を果たしてくれた選手達に感謝します。

また、天野会長をはじめとする山弓連会員の方々、高体連の先生方、選手を支え続けていただいたご家族に感謝します。これからも先輩達の活躍する姿に憧れを感じ、続いていこうとする後輩選手の育成に力を入れていきたいと思えます。

## 第54回関東地域弓道選抜選手権大会を終えて

一年前から準備を重ね、万全を記して大会を迎えました。前日(5日)の審査員会議において大会の運営について慎重に打ち合わせを行い、特に今回初めてとなる、世界大会の関東地域代表選手の決め方については時間をかけ審査員の先生方の意見集約を行い大会に臨みました。昨年、埼玉県で行われた大会は台風のため、一手二回の競技で打ち切りとなりましたが、山梨は晴天に恵まれ快適ななかで行うことができました。

山梨県は立順2番で、緊張するなかで一手審査の方式で行われ、「有段者の部」の一手終わったところで8中で、東京第二・千葉県と並びました。二手目で8中と、他を引き離し合計23中でトップになりました。国体選手が牽引し、他の選手がついて行くかたちで力を発揮しました。「称号者の部」の部は、各県とも採点を意識したのか的中が伸びなく最高が19中で山梨県は17中と、まあまあの的中でした。全体的に、若さの「有段者の部」が中あたりがありました。各選手共、緊張したなかで良射を拝見することができ、運営している私どもも大変勉強になりました。山梨県は2年連続の優秀地連賞をいただき大変名誉におもいました。選手の皆様の真剣な姿、運営役員の無駄のない動き、良い大会であったと感謝申し上げます。また、審査員の先生方は「東京国体」が終わってから二日おいての山梨大会で大変お疲れのようで申し訳なく思いました。

成績抜粋

優秀地連賞・山梨県 的中数 40中      大会賞・有段者の部 第5位 渡邊幸太 的中数 6中  
射技優秀賞・渡邊幸太 得点 671      全日本弓道連盟賞有段者の部 渡邊幸太 的中数 6中

(森岡理事長)